

天城山脈、皮子平

【山城】天城山脈

【ルート】筏場～皮子平

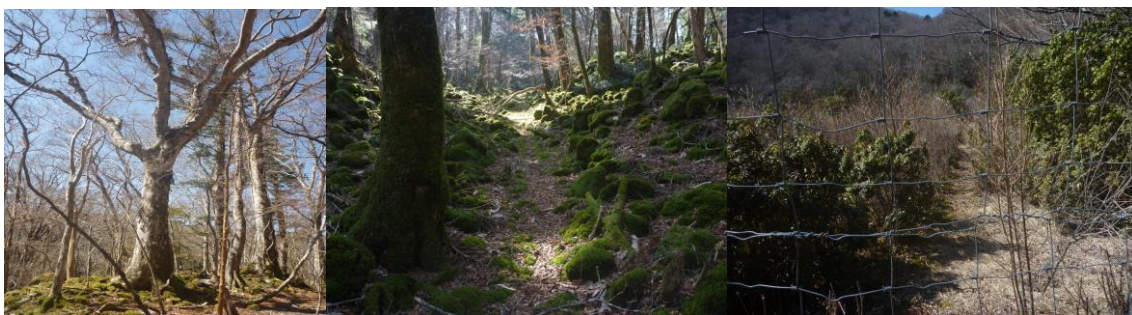
【登山方法】ハイキング

【メンバー】吉川

【山行日】3月14日

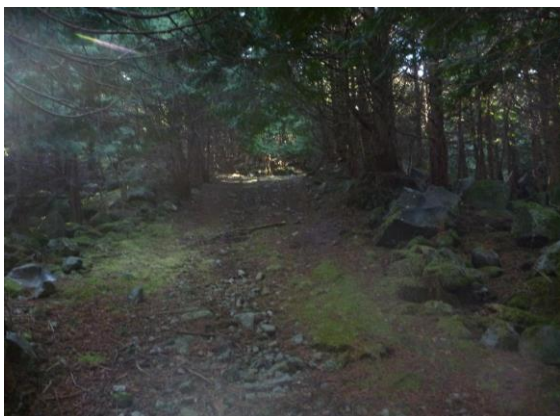
【行程】3/14 茂原 3:30ーアクアライン経由ー小田原厚木道ー伊豆スカイラインー冷川 ICー筏場ゲート 8:00ー皮子沢歩道 8:30ーモミ群落 9:59ー筏場林道 10:13ー戸塚林道周辺探索ー戸塚歩道入口 11:25ー精英杉 12:00ー戸塚峠 12:44ー皮子平 13:08ー上井屋入口 13:52ー筏場林道ー軽石林道ー筏場ゲート 15:22ー冷川 ICー伊豆スカイラインー小田原厚木道経由ーアクアラインー帰宅

噴火口跡 ↓



【内容】天城山脈の縦走路に戸塚峠があり、その峠の北側に皮子平がある。その周辺の植物群落保護林に、ちょっと興味をもった事と、「天城の自然が凝縮された、とっておきの秘境！」との、参考資料の見出しを見て計画した。

アクアラインから幾つも有料道路を経て、筏場林道のゲートに到着する。ゲートは、開いていたが、一般車は通行禁止とあったので、ここに駐車し、身支度をして出発。林道を歩き始めたころは、工事用の車や大型トラックがエンジン音を響かせ走り抜けていた。軽石林道に入り間もなく、皮子沢歩道の小さな看板を見つける。帰りに歩く予定だったが入ってみた。道型は広く、しっかりしているが、ほとんど踏まれていない様子。



皮子歩道入口



苔の林

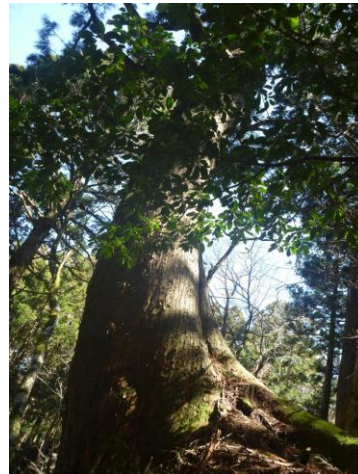
しばらく進むと、道は消え苔生した岩場を進んだ。たまに馬酔木の藪をくぐり抜けることはあったが、雑木林のような藪はなく快適だ！黒く濡れているように光る石(黒曜石)にふかふかの苔がまとわりつき、とても美しく、そして、コケの種類の多さに驚いた。かつての歩道らしき踏み跡に出あいながらも、倒木や、樹木を避けるうち外してしまうので、磁石をまめに見て、慎重に進んだ。テープや道しるべなどは全くない。まだ1時間位しか歩いていないのに、静寂な、この森に慣れてくると、足元の苔に魅せられ、そして、大きい杉の木も目に映るようになった。まるで、太古の森に迷い込んだ夢を見ているようであった。とても美しい森！気付けば、苔の歩道を歩き、筏場学術参考保護林の看板があるモミの群落地に出た。この森からは、踏み跡を辿り採石場の広場がある筏場林道に出る。



皮子歩道の杉



モミの群落



精英樹

上井屋歩道の入口を確かめ、戸塚林道と上井屋林道らしきの探索後、戸塚歩道入口に入る。杉やヒノキのうっそうとした踏み跡を辿ると、大きい杉の群落の中に、精英の樹と名付けられた巨大杉がある。天城山中の植林された杉は、この精英樹の種から生まれたものだそうです。杉林を抜け、日差しが眩しいブナ林に変わる。巨大なブナの林床に苔生した岩がゴロゴロ、途中相にヒメシャラの幼木が群生している。ここは、ロープが張られ導かれて歩く。足元の砂利がキラキラ光り綺麗だったので、帰ってから調べると、天城の抗火石であった。(この軽石は、軽さや、耐熱性から、建材に利用されている) 新緑の頃、是非この林を見てみたいと思う。



皮子平のブナとヒメシャラの林



苔が綺麗！

随分前に天城山の縦走で、歩いた戸塚峠に寄って見た。万三郎岳のシャクナゲの花が見事に咲いていた事と、シャラノの木肌の綺麗だった事を思い出す。

3200年前噴火した火口跡（柵で囲われた先にススキがしげる広場）を見て、杉や、桧の植林帯を下り筏場林道に出る。途中、地図を見ないと分かりにくい所もあった。

帰り道は、皮子沢歩道の神秘的な、そして、荘厳で、人を寄せ付けない気圧を感じた森や、ブナ林とヒメシャラの幼木混生林など余韻に浸りながら軽石林道を下る。



踏み跡が消える



戸塚峠



筏場のわさび田

後で、色々調べてみると、今日歩いたルートは、3200年前噴火し、幅1km、長さ4kmの溶岩が流れた。その溶岩の末端となる、筏場わさび田は、地下水が溶岩に濾過された豊富な湧水の恩恵を受けているが、災害にもあっている。本流の狩野川が浸食しやすい火砕流の地層の為、狩野川台風の大雨で崩壊し、筏場のわさび田は、被害を受けたりしたが、今では、筏場のわさび田は日本一のわさびの里と言われるまでになったそうです。綺麗な緑の棚田で、白い可憐な花が咲いていた。

吉川（記）